1 of 3 5/15/09 1:10 PM

前の記事 バクテリアで水素を生成する新手法

動画:ヨーロビアン・テイストなPS3コマーシャル 次の記事

1000以上の言語を記録したディスクを搭載、『ロゼッタ』探査機

2007年11月15日

サイエンス・テクノロジー IT

フィード トラックバック (0) コメント: 📵 (2) 🤣 🝃 📑

ストレージシステム - Fusionストレージシステム、SATA PCIe PCI/PCI-X、ExpressCard/34 www.sonnettech.com/jp

Ads by Google

Jenna Wortham



Photo Credit:Rosetta Project

アマチュア天文学者たちは11月13日(米国時間)、望遠鏡を空に向けて、『Rosetta(ロゼッタ)』探査機が 地球近辺を通過し、重力を利用した「フライバイ」によって加速する姿を一目見ようとするだろう。

Rosettaは2004年に欧州宇宙機関(ESA)が打ち上げたもので、目的地は、約7年で太陽を1周する67P/チュリュモフ・ゲラシメンコ彗星だ。

最後のランデブーを終えた後は、この彗星に寄り添って余生を送ることになる[Rosettaは、彗星の地表に着陸する初の探査機として、土壌や空中からサンプルを採取するプロジェクトが期待されている。詳しくは過去記事(日本語版記事)で紹介している]。

Rosetta探査機は、1000を超える人類の言語を1万5000ページに記した『Rosetta Disk』のコピーを搭載している。

このディスクの打ち上げは、世界の言語の保存に取り組む団体『Rosetta Project』との共同作業だ。同団体のサイトによると、世界の言語の最大90%が、2100年までに消滅する可能性があるという。

ディスクに入った情報は、耐久性の高い人工遺物として、また人類の言語の記録として、人類の文化を知るための糸口と洞察を、半永久的に提供する。

ディスクには各言語について、音声の解説、言語学的な基礎知識、語彙のリストなどが記録されているほか、国連の『世界人権宣言』や聖書の『創世記』の数章などの朗読や翻訳も入っている。

このディスクを読むのに、特定のハードウェアやソフトウェアは必要ない。ディスクといっても実際には2つの半球からなる球体で、上半分は拡大鏡になっており、テキストは、ニッケル製の下半球の内側に微小刻印されているからだ。将来このディスクを発見したら、文字を1000倍に拡大して読むだけでいい[耐用年数2000年という高密度の記録ディスク上に、テキストをマイクロエッチング処理で記録する技術を、ロスアラモス国立研究所などが開発した。詳しくは過去記事(日本語版記事)で紹介している]。

文字は目で判読できる大きさで始まり、らせん状に進むにつれて縮小され、最後はナノレベルになる(写真参照)。各ページは約0.5ミリメートルの幅で、髪の毛5本程度の幅しかないが、倍率の高い顕微鏡を使えば読むことができる。

ただし、Rosetta探査機とディスクが、実際に目的の彗星に到達するまでの道のりはかなり長い。2007年には火星でフライバイ、2009年には再び地球でフライバイを行なう予定で、最終目的地への到着予定は2014年だ。



す:Amazonアカウントに侵入と主張 電気自動車のバッテリー自動交換ステーション、横浜で公開(動画)

「ジョブズ氏の買い物履歴」売りま

■ 「タッチスクリーン上に物理ボタンを出現・ 格納」新技術(動画)

「最古の彫刻」:7万年前の抽象芸術と3万年

前のビーナス像
北朝鮮国境レポート:経済力の圧倒的な差と

「核問題」

『世界スーパーヒーロー登録所』とコスプレ 自警団

2 of 3 5/15/09 1:10 PM

3 of 3 5/15/09 1:10 PM